

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
中学校	那智勝浦町立色川中学校	山下 真司
学校所在地		
〒 6 4 9 - 5 4 6 1 Tel 0 7 3 5 (5 6) 0 1 0 9 fax 0 7 3 5 (5 6) 0 3 4 6		
担当者名		担当教科
泉 有香		英語科担当
<p>〔学校の概要〕</p> <p>色川地区は、町の中心部より車で山道を30分程入った山間に位置しています。美しい棚田の風景が広がる山里で、かつては農林業や鉱山労働者で活気がありましたが、年々高齢化や過疎化が進んでいます。</p> <p>30年ほど前から新規定住者の受け入れに取り組み、現在は住民の約4割がIターン者で、本校生徒はその家庭の子どもです。生徒は真面目で、必然的に学校生活の中で一人ひとりの役割や責任、活躍する場が多く、協力しながら諸活動に取り組んでいます。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 1年生 4名	名 職員 2名	和歌山県世界遺産センター
実践研究テーマ		
学ぶ意欲を高め、確かな学力をはぐくむ授業の創造		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間	熊野の魅力を伝えよう！	
<p>〔キーワード〕 郷土学習 世界遺産学習 情報活用能力</p>		
<p>〔単元目標〕</p> <p>(1) 熊野の歴史や文化、自然について調べ、伝え合う活動を通して故郷の素晴らしさを感じようとする。</p> <p>(2) これまでの学習で身につけた知識や技能を活かし、主体的に課題を解決しようとする。</p> <p>(3) 自らの体験や考えをまとめ、情報の受け手を意識して、わかりやすく伝えようとする。</p>		
<p>〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕</p> <p>全体 20時間 (「 世界遺産学習 」 10 時間)</p>		
<p>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕</p> <p>和歌山県世界遺産センター・・・世界遺産入門 次世代育成授業（現地学習など）</p>		

実践校に関する事項			
〔单元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	1. 熊野について自分が調べたいテーマを決める。	・生徒相互の話し合いから熊野について自分達の興味・関心があることを見つけ、テーマを考える。	ワークシート 観察
2	2. 活動計画を立てる。 調べる方法を考える。	・他教科、領域での既習経験を生かし、目的に応じて、インターネットや本など必要な資料を選び、調べる方法を考える。	ワークシート 観察
3	3. 自分のテーマに基づき、課題を追求する。 4. 世界遺産について現地学習で体験し、学ぶ。 5. 郷土の食文化について学ぶ。	・課題に応じて多様な方法で調べる。 ・世界遺産センターでの学習や熊野古道を歩くことで、世界遺産についての理解を深めるとともに、故郷の良さに気づく。 ・郷土料理である「めはりずし」を作り、その調理方法や名前の由来を学ぶ。	ワークシート 観察
4	6. 学んだことをまとめる。	・学習したことや感じたことを聞き手に分かりやすくまとめる。	観察
5	7. 学習したことを「学習発表会」で発表する。	・自分たちの思いが伝わるように表現を工夫する。	観察 自己評価
〔单元学習の成果と課題〕			
<p>〔成果〕学習を重ねるにつれ生徒達の熊野地方に対する意識や興味が高まり、郷土の文化や歴史、観光などについての理解を深めることができた。特に現地学習では熊野古道を実際に歩くことで世界遺産をより身近に感じ、その素晴らしさを確認することができた。また学習を通して分かったことや体験したことをまとめ、学習発表会において保護者や地域の方々とも共有することができた。</p> <p>〔課題〕生徒達は小学生の時に町内にある大門坂から那智大社を歩き、今回は伏拝王子から本宮大社までを体験した。今後も小学校の学習内容と重複しないように系統立てて計画する必要がある。</p>			
〔世界遺産学習の効果〕			
<p>地域学習は総合学習で毎年行っているが、世界遺産学習が加わることにより、より広い視野、興味・関心の広がりが見られる。「紀伊山地の霊場と参詣道」を観光として訪問するだけでなく、講義を受けたり現地学習を行うことで、より深く歴史的、文化的に理解できた。先人達が通った道を実際に歩いたことは大きな経験となった。</p>			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
<p>近年外国からの観光客が増加し、紀南地方も国際的になってきている。生徒達が外国の人々と触れ合い世界に目を向ける良い環境になりつつあると思うが、それと同時に自分達の故郷の文化や歴史、観光などその魅力をもっと学ぶ必要がある。</p> <p>そのためにもバーチャル的な学習だけではなく、五感を通して体験する機会は今後も増やされるべきだと思う。</p>			

様式 2

平成30年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

*学習の様子

世界遺産講座を受講し、館内の展示を見学しました。



伏拝王子を出発し、世界遺産マスターのお話を伺いながら本宮大社まで歩きました。

本宮大社に到着！
最後にお世話になったセンターの方々と記念写真を撮りました。



「熊野の魅力を伝えよう！」をテーマに、学習した内容をまとめ、学習発表会で地域の方々に伝えました。



*生徒の感想より

世界遺産センターでは初めて知る事ばかりで驚きました。まず世界遺産には危機にさらされている危機遺産があることに驚きました。危機遺産に登録されている遺産は54件あり、中には登録を取り消された国もあるそうです。貴重な世界遺産が危機にさらされ失われるのは、すごくつらいことだと思いました。でも世界各国で協力し合い支援していると知り、ほっとしました。日本の世界遺産も大切にしていかなければならないと思いました。熊野古道は文化遺産に入ることにも驚きました。私は「那智の滝は人の手でつくられていないのになぜだろう？」と思いました。日本の滝や岩などの自然には昔から神が宿ると信じられていて、人々は祈り大切にしてきたのだと聞いて納得しました。世界遺産には宗教も関わっているのだと知って少し驚き、人が思う気持ちはすごいと思いました。

午後は伏拝王子から本宮大社まで約2時間かけて歩きました。途中で石塚の説明や昔の人が歩いた様子などを聴きました。歩いているのが日本人より外国の人の方が多くて驚きました。古道を歩くのは少し疲れたけど、興味深い良い体験になりました。